

桐生市が教えてくれたこと

～桐生タイムス社主催の交流会で講演をしました～

2025 年 4 月 9 日、桐生タイムス社の峯岸編集長が、私に講演をしていただけないかと明和町役場にお見えになりました。

お話を聞くと、近年元気を失いかけている桐生市に、外からの刺激を与えて欲しいとのことでした。私のような小さな町の町長が、歴史と伝統ある桐生市で講演をさせていただくなんて、正直、恐縮な思いもありましたが、まちづくりに向けた思いを伝える良い機会だと考え、お引き受けしました。

講演は、7 月 16 日に桐生市商工会議所で行いました。題目は「コストコの町のリーダーシップ」です。



【風情ある街並み】

桐生市は、江戸・明治・大正・昭和と、上毛かるたに「桐生は日本の機どころ」と詠まれるほど、全国的に知られた織物の町です。至る所に情緒溢れる町並みが残し、山間の商業都市としての風格もあります。かつて江戸時代には「西に西陣、東に桐生」と称されるほど、織物産業が栄えていました。太平洋戦争により壊滅的な打撃を受けながら、復興を遂げ、1960年代から80年代には再び繊維を中核とした産業を確立することになります。しかしながら1990年代以降、繊維、衣料産業は衰退し、現在に至っています。

終戦と共に発刊に至った桐生タイムス社は、桐生市の栄光を再びと願い、明和町の行政施策を町活性化のエネルギーにしたいと、私を講演者にお招きくださったそうです。そんな風に思っただき心から光栄に思います。

【桐生市のソウルフード】

午後から行われる講演会前に、せっかくなので昼食は桐生市内で食べようと、あるうどん店に行きました。到着すると、既に行列ができており、人気の高さが伝わってきます。



【注文したセット】

私がいただいたのは、桐生のソウルフードとも言われる「ミニソースカツ丼」と「うどん」のセットです。これがまた旨い！安い！地元の雰囲気と相まって、桐生という街に一層の親しみを感じました。



【講演会にて伝えたこと】

講演会場の桐生市商工会議所は、30年ほど前に建てられたそうですが、しっかりとした造りの立派な建物です。会議室には約30名の皆様にご出席くださいました。

司会の方から「今、群馬県で一番元気のある町の町長」とご紹介いただきました。内心、本当に元気があるのだろうか？と、とまどいながら、明和町の取り組みやコストコ誘致に至る経緯やリーダーシップのあり方についてお話させていただきました。



【桐生市商工会ビル】

そして、質疑応答では「桐生市がこれから発展していくためには何が必要か」との質問をいただきました。私は躊躇することなく「飛び地のようにになっている桐生市を一つにすること。間にあるみどり市と合併して一体となれば、どこよりも素晴らしい

街ができるのではないのでしょうか。」と答えました。

明和町では、農政協議を伴う開発は国との調整が必要ですが、桐生市のような山林は農政協議が不要なため、比較的スムーズに開発が進められます。群馬県との協議などが前提ではありますが、新たなまちづくりに挑戦できるチャンスは十分あると思います。

【取材で語った明和町への思い】

講演後、高橋記者と打ち解けた雰囲気の中で取材を受けました。

取材では、講演でもふれましたがコストコを誘致するまでの苦悩をはじめ、役場職員の組織改革として年功序列を廃止したこと、若い職員でも管理職に挑戦できること、やればやるだけ給料と地位が上がるような制度をつくったことなどをお話ししました。



また、まちづくりを進めるためには、行政だけでなく官民連携によりスピード感を活かすことも重要だとお伝えしました。



【左から、桐生市役所・桐生市市民文化会館・桐生地域地場産業振興センター】

【桐生市への敬意と、これからの地域のかたち】

桐生市は、市役所は新しく、近隣には桐生市市民文化会館というモダンな建物や豪華な桐生地域地場産業振興センターがあり、インフラが整っています。また、桐生市ならではの文化と歴史があり、やり方次第で群馬県を代表する大都市になる可能性を秘めていると思います。

明和町のような道半ばの自治体とは違い、大きな魅力を持った桐生市に羨ましさを覚えました。同時に、明和町ももっと頑張らなければと改めて背筋が伸びる思いでした。

桐生タイムス社の皆様、この度は大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

令和7年8月19日

明和町長 富塚もとすけ